



園長だより



いよいよクリスマスの時期が近づいてまいりました。キリスト教国ではない日本でも、クリスマスはかなり定着してきていますね。ところで、知っておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、そのクリスマスはキリストの誕生日ではなく、誕生をお祝いする日です。実は、実際に誕生した日付は聖書には記録されていません。また、聖書（ルカによる福音書2章8節～）を見てみると、イエス様の誕生の時に羊飼いたちが野宿をしていたと書いてあります。12に月の非常に寒いときに野宿をしていたとは考えにくいので、イエス・キリストが生まれたのは夏か秋ごろだったのではないかとされています。ある計算では9月ごろだったのではとされています。

また、イエス・キリストと聞くとイエスが名前で、キリストが苗字だと思われるかもしれませんが、「キリスト」というのは苗字ではなく称号で「油注がれた者」という意味でした。ユダヤ文化では、王様などが選ばれる時に、この人は神様に選ばれましたということを示すために頭に油を注いでそのことを表していました。称号というのは例えば、〇〇先生や、ドクター〇〇、市議会議員の〇〇のような感じです。そして、イエスというのは名前ですが、ギリシャ語ではイエスと発音しました。ユダヤ人の言語であったヘブル語ではヨシュアと発音し「神は救いである」という意味でした。ですから、合わせるとイエス・キリストは「油注がれた者、救い主であるイエス」という意味になったのです。当時、「イエス」という名前はどこにでもありふれた名前でした。ですから、一般的に他の人と区別をするときには、父親の名前を取って「ヨセフの子イエス」と呼んだり、家の職業を取って「大工の子イエス」と言ったり、出身地の町の名前をとって「ナザレのイエス」と呼ばれたりしました。しかし、このような呼び方はイエスを神の子としてではなく、ただの人としてしか見ていない呼び方でした。

しかし、イエスを信じる人達は彼のことを「イエス・キリスト」と呼びました。先ほど説明したように、「イエスは救い主です」という意味ですので、イエスは神の子である、救い主だと信じます、自分の救い主だということを受け入れます、ということの意味していたのです。

今日は少しクリスマスの主人公であるイエス・キリストについて考えてみました。聖書には、イエス・キリストは神が人となられて地上に来られたと書かれています。自分の弱さや罪に苦しむ人たちを救うために来られました。そして、イエス様は赤ちゃんとして生まれたということは、平和をもたらすお方であることを示しています。赤ちゃんは1人で生きていく力はありませんが、居るだけで周りに幸せをもたらします。イエス様の誕生は私たちに希望と喜び、平和と平安をもたらしたのです。

このクリスマス、ぜひ聖書の神様、イエス・キリストについて考え、学ぶ時間を持っていただければと願っています。皆様のクリスマスが平安であふれたものとなりますように願っています。

2018年11月30日

石川三育保育園 園長 ミラー・ジョエル